

## みんなで遠野さ、おでんせ 遠野物語発刊100周年PR

『遠野物語』発刊100周年観光キャンペーン・キャラバン隊は4月16日、盛岡市などを巡り100周年事業をPRしました。市役所前で行われた出発式で総隊長の運萬治男さん(61)＝土淵町＝は「カッパやザシキワラシの力を借り、いいお知らせができるようオシラサマを信じてPRしてきます」と元気に決意を表明しました。

その後、ボランティアの語り部や観光ガイドなどからなる総勢23人は、かっぱ・ざしきわらし・おしらすの3隊に分かれて市役所を出発。県内の報道機関や旅行会社などを訪問し、「遠野さ、おでんせ」と遠野弁で呼び掛けていました。



「カッパ釣り」姿でPRの決意を述べる運萬総隊長



119本のつえを手渡す佐々木豊さん(右)と佐々木良一さん

## 遠野の旅行はつえと一緒に ふるさと学校がつえを寄贈

旧大出小・中学校の校舎を活用した地域おこしに取り組んでいる「遠野早池峰ふるさと学校」運営委員会は4月8日、市観光協会へ木製のつえを寄贈しました。また、「で・くらす遠野市民サポート会議」は、つえ置きを寄贈しました。

寄贈したつえは『遠野物語』の話数にちなんだ119本。同学校運営委員の佐々木良一さんが集めた枝を加工し、佐々木豊さんが焼印を押印して完成させました。豊さんは「このつえが遠野物語発刊100周年に花を添えられたらうれしいです」と話していました。つえとつえ置きはふるさと村のほか、千葉家や五百羅漢など市内の観光施設に設置されています。



元気に声を張り上げ、遠野をPRする生徒たち〔青笹中提供〕

## 個性豊かな創作組曲を披露 音工房がコンサートを開催

市内の音楽グループ「音工房」のコンサート「栄枯～時の方向をみつめて～」は4月18日、市民センター大ホールで行われ、訪れた観客400人は、オリジナル曲やたくさんの演出を楽しみました。コンサートではギターやバイオリン、琵琶など和洋さまざまな楽器を使い、個性豊かな9曲を披露。このほかパントマイム、創作舞踊を組み合わせた創作組曲などの演出が舞台を彩りました。始閨悦子さん(38)＝松崎町＝は「音楽だけではなく、たくさんの演出もあり最後まで楽しめました。こんなに楽しい活動をしている団体が遠野にあるとは驚きです」と関心した様子で話していました。



息の合った演出を披露する音工房のメンバー



春の景色を楽しみながら目的地を目指す参加者

## 歩いて知る遠野物語の世界 遠野お遍路ツアーを初開催

市内の神社仏閣などを巡り遠野物語の世界に触れるツアー「遠野お遍路物語」は4月24日に開催されました。新しい滞在型観光メニューをつくろうと市観光協会などが初めて企画。

南部神社から早池峰神社までの28kmを徒歩で巡るコースと、バスで遠野七観音を巡る二つのコースに市内外から44人が参加しました。徒歩コースの参加者は、そろいの白衣、すげがさ姿で春の景色を楽しみながら目的地を目指しました。秋田県から参加した柴田千代治さん(67)、より子さん(61)夫妻は「かやぶき屋根の民家や、すぐそばに見える山の景色の風景がとても気持ちいいです」と話していました。

## 新鮮野菜や特産品がずらり 「直売所さんさる」がオープン

宮守町鱒沢の国道107号と同283号が交わる場所に4月1日、直売所「さんさる」(菊池洋子店長)がオープンしました。オープニングセレモニーには協力会員や地域住民など50人が出席。菊池祐幸代表は「多くの人が気軽に立ち寄れるお店を目指し、地域の活性化のため従業員一同頑張っていきたい」とあいさつ。関係者でテープカットをして開店を祝いました。同直売所は、昨年10月まで同所で営業していた直売所「ひまわり」を引き継ぎ再オープン。店内は地元で生産された新鮮な野菜、特産のワサビや加工品のほか工芸品などが豊富に陳列され、開店直後から多くの利用客でにぎわっていました。



新鮮な野菜や特産品などが豊富に並ぶ店内